

◀ ヤング頑張ってます ▶

ヤングエンジニア

飯野海運株式会社 木 嶋 航 平

皆様初めまして。2015年10月付で飯野海運株式会社に入社いたしました木嶋航平と申します。このたび原稿の依頼をいただき、私のような未熟なエンジニアが何を書こうかと悩みながら筆をとらせていただいています。

“ヤング頑張ってます”ということなので、今自分が感じていることなどを書かせていただきたいと思います。

まずは自己紹介をさせていただきます。

生まれも育ちも大阪府。高校までは野球しかしておらず、たまたま入った神戸大学・海事科学部。大学では野球部ではなく、ポート部に入部し、毎朝4時に起きての練習。放課後も練習し、まともに遊ぶことも出来ない日々を過ごしていました。この時期の経験は今の自分にとって大きな糧として自信を支えるものになっていますが、その当時はただただしんどいなと感じる日々を過ごしていました。

そんな中、漠然と自分の将来について考え始めます。大学には元々、「船」の勉強ではなく、別の分野の研究に興味を惹かれて入学を決めましたが、乗船実習で「船」に興味がわき、船乗りになった部活の先輩との話の中で本当に自分に向いているものはなにか、やってみたいことはなにかを考えた結果、無理やり進路を変更して進むと決めた船乗りの道でした。名前の“航”の字と関係のある職業に就くとは微塵も思っていませんでしたが（両親が船の仕事でこの字がついたなどのエピソードはなく、これも偶然です）、今思うと両親はいい字を付けてくれたと感謝しています。

～初乗船～

10月から始まった社会人生活。慣れないスーツに身を包み研修の毎日です。とはいえ今まで乗船実習で毎日顔を合わせていた同期たちとの研修で忙しいながらも楽しみながら研修の日々を過ごしていました。

そんな日々の中、告げられた乗船日。もちろん分かっていたことではありますが、とうとうこの日が来たという実習前とは違い身の引き締まるような思いでした。それからの日々は楽しみと不安が半分ずつ入り混じったような状態で、何をしても落ち着かないような気分でした。慣れない準備に追われバタバタと時間が経ち、気が付けば船に乗り込んでいたような感覚です。



筆者：左側

船の上ではクルーたちとのコミュニケーションに困惑し、自分の知っているものとは比にならない大きさのエンジンルームに戸惑い、配管や機器の構造を一から勉強するような日々が続いています。注意不足でミスをしてしま

い、先輩方に迷惑をかけてしまうということばかりで、反省の毎日です。

フィリピン人の3/Eの後ろに付いていき、片言ながらもコミュニケーションをとりながら、1人になったときに落ち着いて作業が出来るように、自分ならどうするのか考えながら作業を進めています。

～船乗りという仕事～

友人たちに自分が船乗りという仕事をしていると話すと、定番ですが"魚釣っているの？"、"海賊って本当にいるの？"などの質問をされます。世間の多くの人々が持っている船乗りという仕事に対するイメージとはそのようなもので、変わった仕事をしていると驚かれることも多々あります。



筆者：手前

今までは私も実習で船に乗っていたことはあるとはいえ、実際に職業として乗ったことはないの、私自身も船乗りという仕事に関しては聞いた話でしかありませんでした。だからこそ乗船前には楽しみと不安が半分ずつというような心境だったと思います。しかし今現在、まだ期間は短いといえど実際に仕事をしてみて、自分の持っていたイメージを大きなギャップもなく、やりたかったことを前向きに、やりがいを持ってやれていると感じ

ることができています。作業で疲れモチベーションが下がってしまいそうになったときには、船橋に上がり船全体を見渡しながら自分の仕事に対する責任を再確認し、また同時に360°パノラマの星空を眺め、疲れを癒しています。大自然に囲まれながら（海しかありませんが……）、仕事をするということのも船乗りの大きな醍醐味のひとつであると感じています。

～最後に～

今回この原稿の依頼を頂いたときには、正直経験もまだまだ浅い新人の私が何を書けばいいのか迷いました。しかし今の自分を見つめ直す良い機会だと思い、一つ一つ思い返ししながら原稿を書きました。

この記事に掲載させていただけるころには、3/Eとしてももう少し成長できているはずです。毎日少しでも成長できるように、101%の毎日を送りたいと思います。最後までお読みくださりありがとうございました。

諸先輩方におかれましては、どこかでお会いできた際には御指導御鞭撻の程宜しく願います。

